

2022年5月度 高島屋営業報告

2022年3月から「収益認識に関する会計基準」を適用しておりますが、営業報告で開示する売上高につきましては、従来の基準（総売上高）で開示しております。

〔売上高 総計〕

		(前年比 単位:%)	
(株)高島屋 計 ^{※1}	+57.3	(株)高島屋 および 国内百貨店子会社 計	+55.2

〔店舗・事業部別 概況〕

				(前年比 単位:%)	
		売上高	入店客数	売上高	入店客数
大阪店	+244.5	+188.8	大宮店	+11.6	+10.1
堺店	+69.8	+38.9	柏店 ^{※2}	+14.6	+8.0
京都店 ^{※2}	+79.2	+60.0	(株)高島屋 各店計	+66.5	+45.8
泉北店	+73.8	+79.9	岡山高島屋	+46.9	+42.1
日本橋店	+64.3	+63.2	岐阜高島屋	+28.7	+11.2
横浜店 ^{※2}	+14.8	+15.7	高崎高島屋	+16.2	+20.9
新宿店	+96.2	+60.0	(株)高島屋 各店 および 国内百貨店子会社 計	+63.2	+44.6
玉川店	+67.8	+40.5	法人事業	+16.6	
立川店	+51.3	+34.1	クロスメディア事業	△15.1	

※1. (株)高島屋の売上高は、(株)高島屋各店、法人事業、クロスメディア事業を含みます。

※2. 京都店は「洛西店」、柏店は「タカシマヤ フードメゾン おおたかの森店」、横浜店は「タカシマヤ フードメゾン 新横浜店」の売上高をそれぞれ含みます。

〔商品別売上高〕

						(前年比 単位:%)		
		(株)高島屋	(株)高島屋 および 国内百貨店子会社	(株)高島屋	(株)高島屋 および 国内百貨店子会社	(株)高島屋	(株)高島屋 および 国内百貨店子会社	
衣料品	+68.9	+66.4	食料品	+22.4	+21.9	サービス	+30.1	+30.0
紳士服・洋品	+85.9	+80.9	生鮮食品	+0.3	+0.3	その他	+12.8	+12.9
婦人服・洋品	+69.9	+67.8	菓子	+38.8	+37.9			
子供服・洋品	+45.1	+41.8	惣菜	+21.0	+20.7	合計	+57.3	+55.2
その他衣料品	+50.5	+49.8	その他	+25.2	+24.6			
身のまわり品	+141.8	+132.0	食堂・喫茶	+118.7	+115.7			
家庭用品	+28.3	+28.0	雑貨	+55.7	+53.2			
家具	+51.0	+45.5	化粧品	+37.5	+34.3			
家電	△9.3	△7.0	美術・宝飾品・貴金属	+73.9	+74.1			
その他家庭用品	+31.6	+31.4	その他	+68.0	+64.6			

○5月度の店頭売上は、前年度の一部店舗における生活必需品売場を除いた休業の反動や、外出機会の増加に加え、高額品が引き続き好調に推移したことから、前年実績を上回りました。

店頭売上	前年比 +63.2%	2019年比 △6.6%
免税売上	前年比 +105.5%	2019年比 △77.6%
免税を除いた店頭売上	前年比 +62.5%	2019年比 +0.3%

※前年度の店舗別休業日数（生活必需品売場を除く）：大阪店、堺店、泉北店、日本橋店、新宿店、玉川店、立川店 各31日間
京都店 17日間、岡山店 5日間

○法人事業は大口計上により、前年を上回りました。

クロスメディア事業部は、前年の受注増の反動により、前年実績を下回りました。

○6月の店頭売上は、大口計上があり、14日までの累計で前年比+20.8%（2019年比+3.8%）、免税売上は前年比+29.1%（同△75.8%）、免税を除いた店頭売上は前年比+20.6%（同+10.9%）で推移しています。